

## 第 11 回 鎌倉市観光基本計画進行管理委員会議事録

日 時：平成 23 年 8 月 29 日（金）午後 3 時～午後 4 時 30 分

会 場：鎌倉市役所 第一委員会室

出席委員：古谷委員長、中根副委員長、藤川委員、鍛冶委員、アルバレス委員

出席職員：小磯市民経済部長、宮下観光振興推進担当課長、渡邊主事

傍 聴 者：なし

議事の概要：1. 開会あいさつ

2. 庶務事項

3. 審議事項

(1) 鎌倉市観光基本計画推進体制の見直しについて

(2) 平成 23 年度鎌倉市観光基本計画進行管理委員会の  
スケジュールについて

(3) 平成 22 年度実績概要等について

(4) 第 2 期鎌倉市観光基本計画中間見直しについて

4. その他

5. 閉会あいさつ

### 1. 開会あいさつ

市民経済部長のあいさつに引き続き、委員長の司会進行により会議を進めた。

### 2. 庶務事項

事務局より会議資料の確認を行った。

### 3. 審議事項

(1) 鎌倉市観光基本計画推進体制の見直しについて

事 務 局：配布資料について説明。

委 員：説明のあった観光基本計画推進協議会は、何名くらい委員で構成されるのか。

事 務 局：これまでの観光振興推進本部とほぼ同じ団体をメンバーとしている。

副委員長：有識者懇談会の構成は。

事務局：鎌倉市観光協会、鎌倉商工会議所及び鎌倉市商店街連合会といった団体のトップで構成しようと考えている。

委員：観光大使などではないのか。

事務局：具体的には市長、観光協会長、商工会議所会頭などを想定している。

委員：観光振興推進本部は計画の立案をしていたか。

事務局：そのような機能は有しておらず、意思決定機関であった。

委員：体制を見直したのだから、機動力のアップが必要だ。実働部隊は誰になるのか。

事務局：推進協議会の会員は、これまでの関係団体の長から機動的に動けるレベルの方々へと変更した。具体的な事業については推進協議会で、大枠に関わるものは進行管理委員会で検討していくこととなる。

副委員長：推進協議会のなかでも観光に密接な団体だけで別部会は検討しないのか。

事務局：推進協議会はまだ6月に立ち上げ、1回開催しただけである。今後、推進協議会が目的達成にむけて有効に機能するようにしていきたい。

委員：推進協議会のなかでコアになる団体と担当者による企画部会のようなものが必要なのではないか。

## (2) 平成23年度鎌倉市観光基本計画進行管理委員会のスケジュールについて

事務局：配布資料について説明。

委員：推進協議会のメンバーから当委員会で話を聞いたり、アンケートをすることはできないか。

事務局：事務局としても、いま委員が言われたようなことは、ぜひやりたいと思う。

副委員長：非公式なかたちでもかまわないし、また協議会全体のメンバーではなくてよいから話を聞きたいと思う。

委員：鎌倉の観光は宿泊が弱いと思うので、旅館組合やゲストハウスなど各団体の報告がほしい。

副委員長：示されたスケジュールはかなりタイトではないか。

事務局：委員のスケジュールにあわせて柔軟に対応したい。

委員長：私も進行管理委員会と推進協議会との意見交換は必要だと思う。

委員：推進協議会は進行管理委員会をどのように見ているのか。

事務局：体制上の位置付けを説明し、理解をいただいている。

### (3) 平成 22 年度実績概要等について

事務局：配布資料について説明。

委員：実績概要には出来たことだけでなく、出来なかったことも書いてほしい。

事務局：両方の視点で記述していく。

委員：今後 5 年間の鎌倉における観光の中心は何かを見いだし、そこに予算の投入を集中するべきではないか。その際に効果測定を行う指標の設定も重要になるのでは。

委員：「検討した」という表現がいくつかあるが、検討の結果、どうなったのかを書いた方がよい。

委員：8 つの取組み内容があるが、それぞれ基本計画のどこにつながるのか。

事務局：記載方法や表現を工夫して、基本計画とのつながりをわかりやすくする。

委員：22 年度には個別検討部会が開催されなかったようだが、部会が必要なかったということか。

事務局：個別検討部会の必要性については、今後、体制の見直しのなかで再考する。

委員 長：ミッションが終わったから開催しなかったという理由も書いた方がよい。

(4) 第2期鎌倉市観光基本計画中間見直しについて

事 務 局：配布資料について説明。

副委員長：防災対策は、民間の受け皿となり得る主体が必要であり、鎌倉にとって非常に大切な問題だ。沖縄県ではこうした問題についてシンポジウムを開催して対応を検討している。

委員 長：国内でこの問題に対応をしているところは、まだないように思うが、鎌倉ならではのものを発信すべきだと思う。

委 員：どこへ逃げたらよいかも課題であるし、また外国人観光客には英語対応も必要になる。

委員 長：日常的な災害にも対応できるものであるべき。

副委員長：国際観光地として十分なもの、さすが鎌倉というものが望ましい。

事 務 局：今回の見直しに盛り込むべきテーマについて、自由にご発言をいただきたい。

副委員長：鎌倉を訪れる観光客のマナーを高めるためには、鎌倉観光のスタイルについて具体的に「鎌倉ルール」とか「鎌倉作法」のようなものを設けても良いのではないか。

委 員：5年後を目指すキーワードを設けてはどうか。COP10名古屋（※生物多様性条約第10回締約国会議）の報告を長谷の手ぬぐい屋を会場にしてやっていたのは面白いと思った。「地球にやさしい、人にやさしい」と言ったようなブランドイメージが鎌倉の観光には必要なのではないか。

委 員：「鎌倉ナレッジ」とか「鎌倉アーカイブ」とでも言うような、さまざまな情報やイベントについての整理が必要のように思う。そのうえで鎌倉ならではの観光のあり方を確立すればよいと思う。

副委員長：「良貨は悪貨を駆逐する」という現象もあって、良いものが増えれば、自然と全体のレベルアップにつながると思う。

委員：大町の古本屋などは知的好奇心をくすぐるイベントであったと思う。

委員：世界遺産への登録も現実味をおびてきたが、誰にターゲットをしばって誘客を行うのか、考えておかなければならない。

委員：鎌倉は観光プロモーションが弱いと思う。いろいろな企画を出していけば面白くなると思う。例えば、「流鏑馬カフェ」などは面白いのではないかな。

事務局：一例だが、市長はロードプライシングを考えているようで、交通政策など観光以外の分野との連携を進めて観光振興につなげればよい。

#### 4. その他

#### 5. 閉会のあいさつ